こだま俳壇（７月）

遠雷や玉菜刻む手早くなり　木村　武子

雷鳴や津軽の三味と二重奏　瀧澤　正行

強くなる父への想ひ盆仕度　田中　一男

セスナ機の影もさがみの植田かな　小川　水草

安全の見守り隊や夾竹桃　中村　桂子

駅中を黒あげは舞ふ便りかな　後藤　貞夫

広島と沖縄の花夾竹桃　松尾佐知子

煙突の無い街となり夾竹桃　友井　眞言

夾竹桃生け垣にする町工場　島田多嘉子

船頭の声飛ばされて春嵐　柳瀬　節子

ふるさとを照らし続ける蛍かな　鳥海　敏雄

いかづちや百年の安心どこへ　角田　英昭

夏空に自分の想ひぶつけてる　白井保次郎

夾竹桃歓声ひびく青い空　本山　文子

容赦ない雷鳴の下山下る　常世田芳子

夾竹桃うとむ気持の少しある　講師　太田　土男